

## 雑木林の庭



緑に囲われぐっつと雰囲気良かった事務所の玄関

前回から引き続き、自宅新築工事の続編です。建物本体工事が完了し、引っ越しを終えて1か月ほど経った5月中旬から造園工事が始まりました。およそ1か月の作業期間を経て梅雨時期真っただ中の6月中旬に完成しましたが、今回はその時の工事レポートです。建物全体のコンセプトはズバリ「雑木林の中の山小屋！」家全体が緑に囲まれた風景をイメージして工事を行いました。前号でもお話しましたが、わが家の敷地は南東に視界がひらけており、その南東角には1階はお客様との打ち合わせスペース、2階にはリビング・ダイニングを配置しています。

どちらの部屋からも窓越しに緑あふれる景色が楽しめるよう計画しました。特に2階からの眺めを意識し、バルコニーは壁を作らず落下防止にワイヤーを張っただけの手すりです。リビングの掃き出し窓からシースルーにしました。将来的に建物の南東角がすっぽり緑に覆われるよう、1、2階の天井高をそれぞれ20センチ下げて（吹き抜け部分は除き2、2mに。）建物全体を低くしました。緑で覆うといってもやみくもに木を植えるわけではありません。日差しを取り入れたい場所には落葉樹を、目隠ししたいところには常緑樹をといた具合にバランスよく植栽を配置していきます。落葉樹は夏の日差しを遮り、冬には葉を落として日向を作ってくれるのでエアコン等の設備に過度に依存しない快適な居住環境を作ってくれます。このように植物は建築の工夫だけでは対処が難しいような住宅の弱点も補ってくれるんです。ちょっと話が横道にそれてしまいましたがそれでは造園工事を順を追ってご説明します。まずは敷地内で一番広い駐車スペースです。駐車場というと真っ先に思い浮かべるのは土間コンクリート。ただ雑木林にコンクリートはありませんし、景観以外の観点からも近年問題になっているヒートアイランド現象による大気の高温暖化、集中豪雨による排水処理問題と、地面は土を残したいと考え、結果石を敷き詰めることにしました。小ささまざまな大きさ、厚みの石を一つ一つ地面に据えていきます。使う道具はスコップのみ。メジャーや水平器も使わず土地の形状（勾配）をみながら経験と感覚を頼りに作業していきます。表面に見える部分だけではなく、地面に埋まる部分（不揃いな石と石がうまくかみ合い動かないように設置）にも注意を払います。普段建築現場でミリ単位の仕事をしている自分にとっては衝撃的であり、その仕上がりに感動しました！駐車場の石の工事で同時進行で枕木も据えていきます。道路から玄関へのアプローチに敷き詰めていくのですがこちらの作業もダイナミックです。もともとこの枕木は国

内の鉄道で実際に使われていたもので、ケンパスと呼ばれる硬くて耐久性の強い木材でできています。防腐剤が注入されており、かなり臭いがきつかったのですが、チェー



気の遠くなる作業ですが、石のくせを確認しながら一つ一つ丁寧に据えていきます。



職人さんは大変ですが毎日少しずつ広がっていく石畳を眺めるのが楽しみに。



目地に土を入れてついに完成！この後この目地にグラウンドカバーとなるダイカンドラという葉っぱの種をまきます。うまく育ってくれるかなあ～

ンソーでぶった切り、土で高さを調整しながら据えていきます。中古枕木は新品にはないアンティークな風合いが漂い、味のあるアプローチに仕上がりました。さてお次は玄関ポーチの製作です。もともと建物の基礎の一部としてコンクリートでできているものにひと手間かけます。一般的には仕上げにタイルを貼る事が多い所ですが、今回は室内の仕上げも含めて装飾にタイルは一切使わず、全てモルタル仕上げにしてみましたのでこちらもモルタルで仕上げていきます。洗い出しという工法で一緒に練りこんだ砂利がうっすら表面に浮き出てくる仕上げで無機質なモルタルが柔らかい印象に。枕木や石との相性も GOOD です！



砂利を練りこんだモルタルで一度キレイに仕上げます。



半乾きの状態で水をかけて表面を刷毛でこすると細かい砂利が浮き出てきます。



ぎっちり仕上げるのではなく柔らかい風合いを大切にします。

駐車スペースの石畳とアプローチの枕木が終わったらいよいよ最終段階、植栽の植え込みです。高木→中木→低木の順に植え込んでいきます。まずは高木。高木は庭の印象を大きく左右する重要な要素なので、冒頭でもお話したように庭を眺める場所からの見え方などを確認しつつ慎重に植えこんでいきます。ダンプで搬入された十数本の高木ですが、職人2人でわずか1日で所定の位置におさまって이었습니다。ここまで行ってきた石や枕木の工事が3週間ほどかかっていたのでこのスピードにはちょっとびっくり！職人に尋ねると「木は生ものと同じだからね、鮮度が命、枯らしてしまったら死活問題でしょ。」との事。なるほど。この後中木、低木の植え込みに入っていきます。高木はあらかじめ配置を決めていましたが、中木、低木はバランスをみながら現場で検討しながら配置していきます。高木が配置された時も迫力に圧倒され感動しましたが、中木、低木が配置されていくのを見てみると庭の景色というか表情がどんどん良くなり、まるで職人がマジシャンのように見えてきました！絶妙なバランス感覚で庭全体に彩を添えていきます。本当にセンスが光る作業です。さて作業していく中で目にする剪定。従来から一般的に使われていた仕立て物と呼ばれる樹木は、出来上がった時が完成形で、その形を剪定で維持していきます。一方、今回の雑木の庭で用いる自然樹形の樹木は、成長速度の異なる木々のバランスを剪定で調整しながら変わっていく風景を楽しむスタイルです。枝先を切りそろえ丸く刈り込んでいく従来の剪定ではなく、重なり合っている枝を付け根から切り取る「透かし剪定」と呼ばれるやり方で剪定していくのだと教えてもらいました。枝の途中で切ってしまうとブツ切りで人工的になってしまい、切り口から不自然な小枝が生えてくるようになるとの事。普段の水やりも含めて庭とのかかわり方をいろいろ話してくれました。さてこうして1か月にもおよんだ造園工事が無事に完了しました。ただちょっと気になるところが。まだ高木の高さが足りず、2階が丸見え・・・という事。建物が低いといっても5m位の高さが無いと外からの目隠しにはなりません。南側には高いものは4m位ありますがそうでないものも。植栽は4mを超えると価格が一気に跳ね上がるとの事。予算が追いつかず仕方がないのですが。ただいきなり完璧を求めてはいけませんし、木が成長して大きくなっていく様を見るのもまた楽しみの一つ。石畳にまいたグラウンドカバーのダイカンドラも気になるところ。建物同様に経年変化を楽しみたいと思います。庭ができてから朝夕1日2回の水やりが日課となりました。庭仕事をしていると近隣の方々ともコミュニケーションがとりやすく庭を作って良かったなあと感じる今日この頃です。



まだ緑に囲われるといったイメージとは程遠い状況ですが、木々の成長を楽しみたいと思います。

## 見えないこだわり

さて前回から2回に分けて自宅工事の様子をご紹介してきましたが、ここでは完成後にはわからないBELLSのこだわりをご紹介したいと思います。ベルズレターVol.25でもお話しましたが家の性能として挙げられる3大要素として「耐震性」「断熱性」「耐久性」があります、耐震性、断熱性はお話しするまでもなく、国が定めた基準以上をクリアした内容で設計しています。（※断熱性に関する省エネ基準は義務ではなく目安、2020年に義務化が予定されていましたが、業界の認識やコストの問題などから先送りが決定しました。）今回お伝えしたいのは「耐久性」です。耐久性＝結露対策！木造住宅にとって結露（水）は大敵です。長らくリフォームの仕事をしていた、お悩み相談で多いのがこの結露でした。特に冬場に多い窓の結露や北側の壁に発生するカビなど、建物だけではなく、健康にも大きく影響します。表面に出ていればいいのですが、怖いのが壁の内部結露です。壁に入り込んだ湿気が逃げ場を失い蓄積され、ひどい場合は壁の下地を腐食させてしまいます。こんな場面を目の当たりにしてきましたので自宅を建てるのであれば「絶対に風通しの良い家にしよう！」と心に決めていました。風通しの良い家といっても、部屋の中の風通しではありません。もちろん、これはこれで非常に重要な事で、部屋の形状、間取り、窓の位置は風の抜けを考慮して設計しました。今回お話しする風の抜けとは、屋根の中、外壁の中を空気が流れる、「通気工法」の事です。屋根、外壁共に二重構造にして、その隙間に空気が流れるようにします。すると建物全体が空気の層で覆われ、外部の寒さや暑さを防ぐとともに、湿気や結露を建物から放出させます。また今回外壁の下地材（モイス）、断熱材（セルロースファイバー）は共に通気する建材なので室内の湿気も外壁を抜けて外へ放出される構造になっています。従来の外壁の下地材（ベニヤ板）は通気しないので室内の湿気が壁に入り込むと内部結露を起こしてしまいます。（※その為室内の壁には防湿シートを被うのですが、施工不良等により湿気が入り込んでしまうケースがあるんです。）また断熱という視点からみると、わが家の2階の外壁材には意匠性も兼ねて杉板を貼っています。無垢の木材はそれ自体空気を含んでいますのでいってみれば断熱材。つまり外壁は杉板・空気層・断熱材（セルロースファイバー）と、三重の断熱構造といえるんです！断熱に話がそれてしまいましたが、BELLSの見えないこだわりとはズバリ「屋根・外壁の通気」です！ただこの通気工法はきちっとした理論に基づき正しい施工を行わないと逆に内部結露を起こしてしまう難易度の高い工法です。普段のリフォームの仕事ではなかなか経験できない、また新築初心者にとってはハードルの高い工事でしたが、何事も勉強！という事で何とかやり切りました！

### 通気工法（屋根編）



## 通気工法（外壁編）



外壁に貼ってある白いシートは透湿防水シート。湿気は通すけど水は通さない優れたもの。屋根と同様に通気胴縁と言われる桟を縦に固定します。1階はモルタルの左官仕上げなのでこの縦桟に網を貼って壁を仕上げます。2階は杉板を縦に貼るのでこの縦桟の上にさらに横桟を固定していきます。この時下から入ってきた空気が妨げられることなく抜けるように施工するのが大変重要なポイントです！



2階の外壁に杉板を貼っている様子です。幅 18 センチの杉板を 1 センチの隙間を開けて貼っていきます。その隙間を 4 センチ幅の押し縁と言われる細い桟で塞ぎます。木は湿気や乾燥で伸縮を繰り返しますがこの 1 センチのクリアランスで吸収します。また万が一交換になった場合も 1 本単位で交換できメンテナンスも楽！窓まわりはあえて空かして貼ります。雨は入る前提、入っても下に流れて乾燥していく計算です。



完成した写真です。矢印が空気の流れを表しています。空気の入り口は基礎の水切りの上からと、1、2階の壁の境目から。いずれも上へと流れて屋根とぶつかった所から抜けていきます。よく木は腐りやすいというイメージがありますが、それは濡れた状態が続いた場合、濡れてもすぐ乾けば木は腐りません。また使う材料にもこだわりが。杉の芯に近い赤身の木材を使います。赤身は油分が多く耐久性が強いです。また表面はつるつるに仕上げないであえてザラザラのラフな仕上げにします。ザラザラの方が表面積が大きくなり濡れても乾きが早くなるからです。



下から湧いてきた空気が抜けていきます。雨が吹き込んで下にも流れてそのうち乾燥していきます。屋根の軒を出しているのも外壁に雨が当たらないようにする為。神社など昔の伝統的な建物はみんな軒が深いですね。軒が雨から建物を守ります。何十年、いや何百年と外壁はほったらかし。そんな日本の建築技術を学ぶいい機会となりました。

## Bells Kitchen

ご無沙汰しております。皆様、お変わりありませんか？新しい家に越してきてから早いもので 4 か月が経とうとしています。今回、家を建てるにあたり、収納も生活動線も熟考して計画しており、あるべき物があるべき所へバッチリ収まっています。しかし、人間の習慣とは恐ろしいものです。特にご飯を作る時にです。ボウル・・・とか、みりん・・・とか、料理中に何かが必要になった際、体が勝手に以前のキッチンで収納してあった方向に動いてしまうのです。最初は無駄な動きばかりで料理もはかどらずイライラしましたが 4 か月経ち、ようやく新しいキッチンに体が慣れてきたようです。さてそんな新しいキッチンからの Bells Kitchen。第一弾は「本格！シンガポールチキンライス」です。鶏をゆでたチキンスープで炊くチキンライスは格別の美味しさです。暑い夏にぴったりなナンプラーソースをかけて召し上がれ！



本格！  
シンガポールチキンライス

### 材料(4 人分)



鶏モモ肉・・・2 枚(余分な皮は切り落とし、フォークで裏表差しておく)  
しょうが・・・1 片　にんにく・・・1 片　玉ねぎ・・・1/4 個  
塩・・・大1　酒・・・大2　水・・・700ml  
ソース(ナンプラー 大1と1/2、レモン汁 大1と1/2 輪切り唐辛子少々  
米・・・2 合(といでザルにあげておく)

### 作り方

- 1、鍋に鶏モモ肉、しょうが、にんにく、玉ねぎ、水を入れ強火にかける。
- 2、沸騰したら火を弱め、10 分茹でたら火をとめ、そのまま冷やす。  
(こうすると鶏肉がパサパサせず美味しいです。)
- 3、ザルにあげて水を切っておいた米を炊飯器に入れ、水の代わりに茹でたスープを 2 合の目盛よりも少し少な目に入れる。通常に炊飯する。

出来上がったチキンライスにゆで鶏をのせ、  
ソースをかけて召し上がれ！

パクチーを付け合わせれば、気分はアジア！ お試しあれ！

### お知らせ

2 回にわたってお伝えしてきました BELLS 新築工事ですが、文章だけでは伝えきれない(涙)、という事で内覧会を開催させていただく事となりました！8 月 31 日(土)、9 月 1 日(日)の 2 日間限定です。詳しい内容はチラシをご覧ください！普段の仕事でお客様にご提案して喜んでいただけたプラン、いつかこんな家に住みたいと夢見ていたプランなど、ベルズのこだわりが凝縮したお家です！この機会に是非ともお越し下さい！今後のリフォームの計画の参考にいただければと思います！またホームページもリニューアルしましたのでこちらも「ベルズリフォーム」で検索して下さい！次回ベルズレター発行は 11 月を予定しております。お楽しみに！